

原子力委員会 原子力防護専門部会
技術検討ワーキング・グループ（第4回）議事要旨

1. 日 時：平成19年5月25日（金） 15：30～19：30
2. 場 所：虎の門三井ビル 地下1階 原子力安全委員会 第3会議室
3. 出席者：
委員等：内藤、川上、衣笠、中込（敬称略）
事務局：文部科学省、経済産業省、国土交通省、内閣府
4. 議題
 - ①ガラス固化体等及び取扱施設に係る妨害破壊行為の観点からの防護について（案）
 - ②輸送中のガラス固化体等に対する妨害破壊行為の観点からの防護について（案）
 - ③妨害破壊行為に対する防護の基本的考え方（案）
5. 議事概要
 - ①ガラス固化体等及び取扱施設に係る妨害破壊行為の観点からの防護について（案）

○事務局より関係資料について説明し、その後審議が行われた。主な意見の概要は以下のとおりである。

 - ・ガラス固化体等への接近困難性については、放射線を放出することから、それに対応するための措置を採っているからなのか、放射線が強いからなのか明確にするべき。
 - ・本WGでは、「脅威」という用語の意味は、不法行為者による妨害破壊行為を指すということで統一的使用する。
 - ・妨害破壊行為を「阻止する」というよりも、「防護する」という表現の方が、実態上適切ではないか。
 - ②輸送中のガラス固化体等に対する妨害破壊行為の観点からの防護について
○事務局より関係資料について説明し、その後審議が行われた。主な意見の概要は以下のとおりである。
 - ・輸送中の防護は情報管理が重要である。
 - ・輸送容器に関しては、国際的技術基準に準拠した国内法令に基づき堅

固なものが作成されている。

- ・ガラス固化体等の容器には、公衆に対する放射線影響を与えるような量のガスは含まれていない。

③妨害破壊行為に対する防護の基本的考え方について

○事務局より関係資料について説明し、その後審議が行われた。主な意見の概要は以下のとおりである。

- ・盗取に対する防護措置と妨害破壊行為に対する防護措置は、内容的に異なるので、慎重に検討すべき。
- ・連絡により、治安当局からは、「応援部隊」というよりも「対応部隊」が到着するという表現の方が適切ではないか。
- ・妨害破壊行為をやり終えるまでに治安部隊が到着できるように、十分な遅延が確保できれば確実な防護措置と言えるのではないか。
- ・国際的に妨害破壊行為に対する考え方の議論が進みつつある中、我が国としても考え方の整理をしていくべきではないか。
- ・放射線の影響度に応じて対象の有する潜在的危険性を区分分けするという考え方は、適切ではないか。
- ・妨害破壊行為に対する具体的な考え方は、今後、国際的な検討状況等を踏まえながら決めていくべきであるが、基本的な概念については整理しておくべきではないか。

次回の開催日程は別途調整することとし、本日の議題③を引き続き審議することとなった。

以 上